

AROGA Letter

Vol.3

聖なる植物

アロエベラ

「アロエ」は、アラビア語の「苦くて輝く物質」を、「ベラ」は「真の、本物の」を意味します。紀元前4000年ごろには薬用として使われていた記録があるほど、人々の生活に浸透している植物です。

アロエベラを含むアロエ属には600種類を超えるアロエがありますが、薬用に使われるのはわずか4種。アロエベラ、アロエ・ベリー、アロエ・フェニックス、キダチアロエです。この中で最も薬効が強いのがアロエベラです。



アロエベラ



アロエ・ベリー



アロエ・フェニックス



キダチアロエ

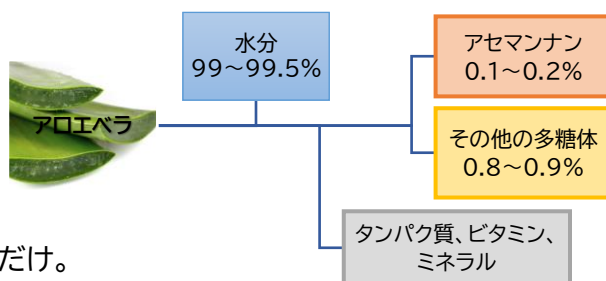
アロエは葉の外側と内側で全く薬効が違います。外側の皮の部分はアロインなどが含まれていて下剤効果があります。継続的に使うと依存性を示すことから、現在では世界中の国々で配合量に厳しい制限を設けています。

葉の内側のジェルには、アセマンナンをはじめとする多糖体が含まれています。

しかし、ジェルの99%は水分、残り1%に含まれる多糖体のうちアセマンナンはさらに20%ほど。

ジェル全体を100%とするとアセマンナンはわずか0.1~0.2%、1kgのジェルから1gしか取れません。

それでもアセマンナン含量がこれほど高い植物はアロエベラだけ。いかにアセマンナンが希少な物質であるかがわかります。



1984年にビル・マカナリー博士がアセマンナンを発見して以降、今でも世界中で研究が続けられています。アセマンナンには、免疫調節活性、抗がん活性、抗酸化活性、胃腸（プレバイオティクス）、神経保護活性（認知、記憶）、肝保護効果、口腔内効果、傷の治癒などが認められています。

